

## 17. 診療科の枠を超えた有効な空床利用を行うための空床管理への取り組み

山口大学医学部附属病院 猪上 妙子

### 【実践の概要】

当院では、空床管理を行う組織がなく、空床管理について病院全体としての取り組みが確立していない。そのため、部署間の空床利用の交渉を行う役割は看護師長が担っている。実際の空床利用は要請する看護師長と要請された看護師長との話し合いにより決めているが、交渉時の情報は空床数、当日の入退院などPC画面上で確認できる情報のみである。

医療の現場では患者の重症化や高齢化、看護においても看護業務量の増加と過密化が著しく、新人看護師の増加など人的環境の変化もある。当院では院内で統一された「空床とは」の共通理解がないため、診療科、看護師長の空床のとらえ方も異なり、長年のセクショナリズムもあって、空床利用の交渉は大変な労力を必要とする。

しかし、効率的な空床利用は病院経営面でも重要である。看護部では「病院経営への参画」を看護部の目標に掲げ、その中で「診療科の枠を超えた、有効な空床利用」について看護師長会のグループワークで検討している。私はそのグループメンバーである。また、当院は2009年にシステム更新が予定されており、私は新システム検討ワーキングの看護部代表でもあるため、システムの利用を含めた空床管理を検討し、部署間の入院受け入れがスムーズに実行できる空床管理の方法や手順の作成が必要と考え、本課題に取り組んだ。

### 【実行計画】

#### 1. 目標

空床管理の方法や手順を作成し運用する。

#### 2. 方法とスケジュール

- 1) 看護師長会グループワークで、空床利用の現状調査を行い「空床」の定義を検討する。

平成19年12月

空床管理の基本的な考え方をグループでまとめ、グループワーク報告会で提案し、「空床とは」を看護師長・副看護師長が共通理解する。

平成20年3月

- 2) 看護部の基本的な考え方を成文化し医師や事務系へ提案する。

平成20年度

- 3) 空床管理に必要と考えるシステム上の追加項目や新規項目を要望する。

平成20年4月

### 【結果およびまとめ】

空床利用について現状調査を実施した。他施設の資料も検討し、「空床」の定義を「当日および翌日も入院予約ないベッド」とし、看護師長・副看護師長へ提言した。また、ベッド貸借における課題を抽出した。課題として「借りるためのプロセス」「利用可能な病床がわかりにくい」「貸借の期間」「病棟業務システムの違い」「患者に関すること」が挙がり検討した。2009年のシステム更新時の追加項目や新規項目として使用不可の病床情報等の項目を仕様書に加えた。当院は、2009年度耐震工事のため、一般病床が減少することが決定したため、提言の運用が不可欠となる。

課題の取り組みを実行し目標達成を目指していく。

**【評価】**

看護部内で共通認識するための「空床とは」や検討すべき課題を提示できたことで、看護師長・副看護師長は各病棟間の認識の違いを知る機会となり、提言の運用の準備段階となった。